

需給調整・経営安定対策に関する資料

平成17年5月23日
農 林 水 産 省

目 次

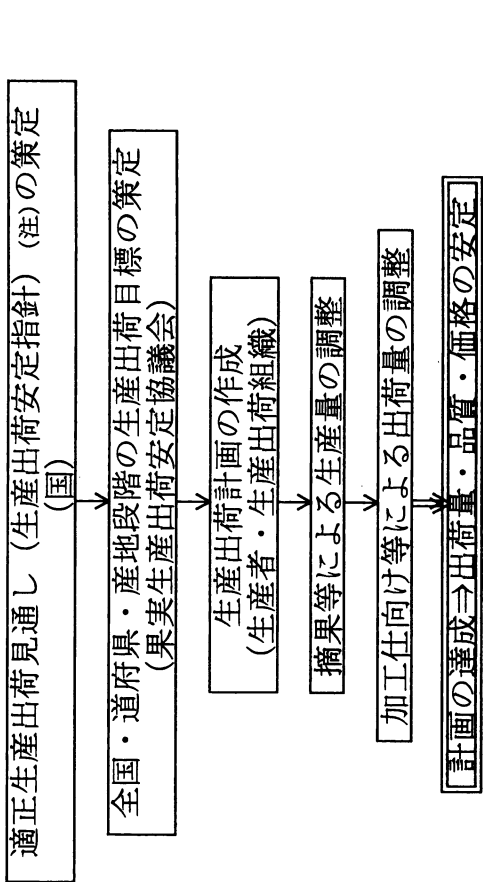
1	需給調整・経営安定対策の概要	1
	(1) 需給調整対策	1
	(2) 経営安定対策	2
2	需給調整対策の現状	3
	(1) 13年産	3
	(2) 14年産	3
	(3) 15年産	4
	(4) 16年産	4
3	経営安定対策の現状	5
	(1) 13年産	5
	(2) 14年産	5
	(3) 15年産	6
	(4) 16年産	7
4	価格動向	8
	(1) 15年産	8
	(2) 16年産	9
5	17年産生育状況	11
	(1) うんしゅうみかん	11
	(2) りんご	11

1 需給調整・経営安定対策の概要

(1) 需給調整対策

- 国は、毎年、需給動向を踏まえ、食料・農業・農村政策審議会の意見を聴いて、適正生産出荷見通しを示すこととしている。
- その際、大幅な生産増加が見込まれる場合には、適正生産出荷見通しに代えて、うんしゅうみかんについては、果樹農業振興特別措置法に基づき、農林水産大臣が生産出荷安定指針（りんごについては生産出荷指導指針）を策定することとしている。
- 見通し（指針）の策定を受け、生産者団体等からなる全国、道府県、産地の各段階の果実生産出荷安定協議会等は、道府県別、産地別、生産者・生産出荷組織別の生産出荷目標を策定することとしている。
- 一方、生産者・生産出荷組織は、その目標に即し予定される生産出荷量及びそのための調整方法を盛り込んだ生産出荷計画を作成することとしている。
- 指針が策定された場合には、生産量の調整効果が高い全摘果等の特別摘果により、生産量の調整に最優先に取り組み、需給調整を強化することとしている。

○ 需給調整対策の流れ



（注）生産出荷安定指針は、予想生産量が全国の適正生産量の原則として10%以上上回る場合に策定。

○ うんしゅうみかんの特別摘果の内容

改植・高接	うんしゅうみかんからうんしゅうみかんの優良品種その他果実への改植又は高接園地、樹又は半樹ごとに全く結実させないようにならせるためのせん定又は摘果
全摘果	園地ごとに一定面積以上の樹を伐採する間伐・大枝切り
間伐・大枝切り	伐又は樹の主枝を一定割合以上切除する大枝切り

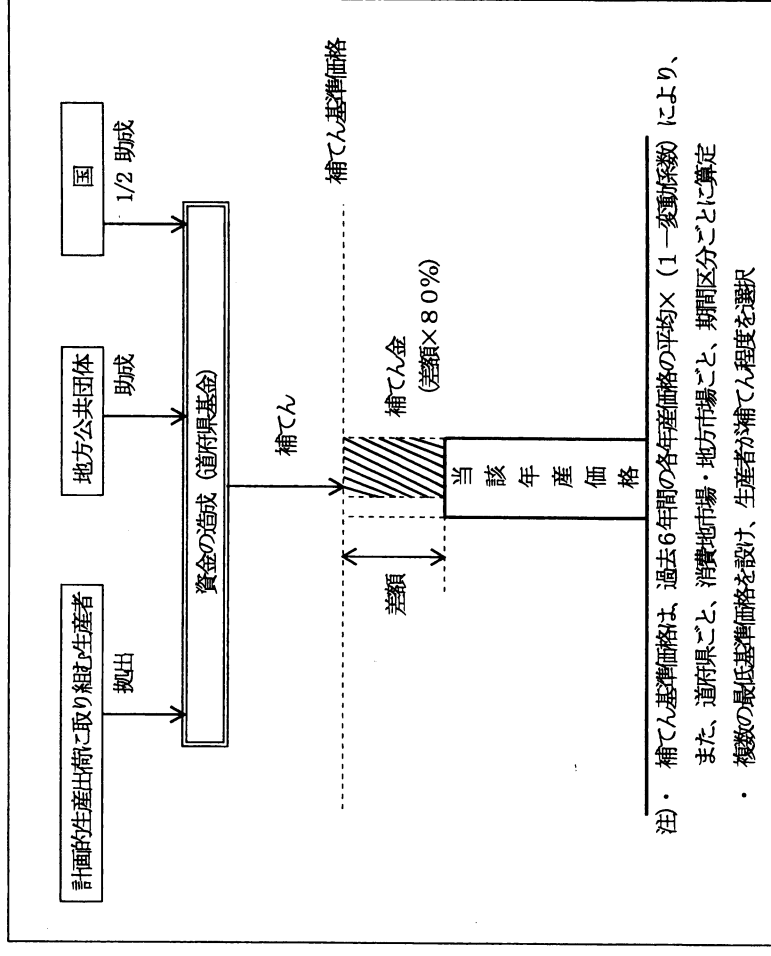
(2) 経営安定対策

○ 需給調整対策の取組が行われた場合に、育成すべき果樹生産者の経営安定を図るため、平成13年度から18年度までを計画期間として経営安定対策を実施している。

○ 本対策に必要な資金は、生産者の抛出と地方公共団体及び国の助成金等により造成している。

○ 本対策においては、道府県平均で当該年産価格が補てん基準価格を下回った場合には、その差額の8割を補てんすることとしている。この場合、産地・生産者が計画的生産出荷を的確に実施していることが交付の条件となっている。

○ 経営安定対策の仕組み



2 需給調整対策の現状

(1) 13年産

- うんしゅうみかんについては、春先に大幅な生産増加が見込まれたことから、生産出荷安定指針を策定し、需給調整を強化するとともに、りんごについては、適正生産出荷見通しを策定した。

- 生産現場においては、関係者が一丸となって、特別摘果等による生産量の調整を最優先に取り組んだ。

- このような取組により、うんしゅうみかんの収穫量は、128万トン(生産目標量に対し102%)、りんごの収穫量は、93万トン(同102%)と計画に近い水準となった。

- 13年産うんしゅうみかん及びりんごの適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん りんご	生産目標量 適正生産量	125万トン※ 91万トン
-----------------	----------------	------------------

- ※ うんしゅうみかんについては、大幅な生産増加が見込まれたことから、適正生産出荷見通しに代えて、生産出荷安定指針を策定。

- 13年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
13年産実績(a)	128万t	113万t	93万t	83万t
適正生産出荷量(b)	125万t	111万t	91万t	82万t
比率(a/b×100)	102%		102%	

資料：果樹生産出荷統計等

(2) 14年産

- うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加は見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。

- うんしゅうみかんの生産量は113万トンで、適正生産量を2万トン下回り、また、出荷量は99万7千トンで、適正出荷量を2万8千トン下回り、計画的な生産出荷が行われた。

- りんごは、生産量が92万6千トンで、適正生産量を3万6千トン上回ったものの、出荷量は80万9千トンで、適正出荷量を9千トン上回り、計画に近い水準の生産出荷が行われた。

- 14年産うんしゅうみかん及びりんごの適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん りんご	適正生産量 適正生産量	115万トン 89万トン
-----------------	----------------	-----------------

- 14年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
14年産実績(a)	113万t	99.7万t	92.6万t	80.9万t
適正生産出荷量(b)	115万t	102.5万t	89万t	80万t
比率(a/b×100)	98%		104%	

資料：果樹生産出荷統計等

(3) 15年産

○ うんしゅうみかんについては、おもて年となっており、過剰生産が懸念されることから、生産出荷安定指針を策定し、需給調整を強化するとともに、りんごについては、適正生産出荷見通しを策定した。

○ うんしゅうみかんは、特別摘果等の計画生産の取り組みが推進されたことに加え、極早生種を中心に8月中旬以降の高温・少雨により果実の肥大が進まず、また、9月以降の日焼け果等の発生により、生産量は、適正生産量115万トンを下回る114万6千トンとなった。

○ りんごは、高品質果実の生産のための仕上げ摘果や樹上摘果により、ほぼ計画に近い水準の生産出荷が見込まれていたが、その後、青森県で台風等の気象災害による落果や傷果の発生により、りんごの生産量は、適正生産量87万トンを下回る84万2千トン（適正生産量の97%）となった。

(4) 16年産

○ うんしゅうみかん及びりんごについては、大幅な生産増加が見込まれないことから、それぞれ適正生産出荷見通しを策定した。

○ うんしゅうみかんは、春先の安定した天候により順調な生育で推移し、計画的な生産が見込まれていたが、相次ぐ台風の影響による落果や傷果の発生により、生産量は、適正生産量111万トンを下回る106万トン（適正生産量の96%）となった。

○ りんごは、主産県での春先の凍霜害によるサビ果の発生が見られたものの、その後好天に恵まれ、計画的な生産が見込まれていたが、8月以降の相次ぐ台風の影響により落果や傷果の発生により、生産量は、適正生産量87万トンを下回る75万5千トン（適正生産量の87%）となった。

○ 15年産うんしゅうみかん及びりんごの適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん りんご	生産目標量 適正生産量	115万トン※ 87万トン
-----------------	----------------	------------------

※ うんしゅうみかんについては、大幅な生産増加が見込まれたことから、適正生産出荷見通しに代えて、生産出荷安定指針を策定。

○ 15年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	114.6万t	101.4万t	84.2万t	74.7万t
適正生産出荷量(b)	115万t	102.5万t	87万t	78万t
比率(a/b×100)	100%		97%	96%

資料：果樹生産出荷統計等

○ 平成16年産うんしゅうみかん及びりんご適正生産出荷見通し

うんしゅうみかん りんご	適正生産量 適正生産量	111万トン 87万トン
-----------------	----------------	-----------------

○ 平成16年産うんしゅうみかん及びりんごの生産量・出荷量

	うんしゅうみかん		りんご	
	生産量	出荷量	生産量	出荷量
生産出荷実績(a)	106万t	93.6万t	75.5万t	66.7万t
適正生産出荷量(b)	111万t	98.5万t	87万t	78万t
比率(a/b×100)	96%		87%	86%

資料：平成16年産みかんの収穫量及び出荷量等

3 経営安定対策の現状

(1) 13年産

うんしゅうみかん及びりんごの卸売価格は、消費者の低価格指向が消費全般に定着してきたため、低水準で推移した。
この結果、うんしゅうみかんは、計画的生産出荷に取り組んだにもかかわらず、全19府県で補てんが行われ、りんごについても出荷時期が比較的遅い2県で補てんが行われた。

○ 平成13年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額

	全 国	当該年産 価 格 円/kg	補 て ん 基 準 価 格 円/kg	交 付 額 億 円	1 農家当 り 交 付 額 千 円	考 備
み	全 国			118	275	
か	静 岡	161	205	16	296	対策加入県
	和 歌 山	135	185	19	387	19府県
	愛 媛	142	190	29	290	補てん対象県
	福 岡	129	155	5	326	19府県
	佐 賀	125	155	11	303	
	長 崎	134	160	7	234	
	熊 本	138	165	13	471	
り	全 国			33	436	対策加入県
ん	青 森	204	245	32	483	5 道県
	山 形	216	205	—	—	補てん対象県
ご	長 野	262	250	—	—	2 道県

(2) 14年産

うんしゅうみかんは、ほぼ計画的な生産出荷量となったものの、果実の酸が高く、消費者が敬遠したこと、年末に出荷が集
中し、1月に過剰な在庫が発生したこと等により、同じうら年
であった12年産と比較すると、卸売価格が低い水準で推移し、
12府県に補てんが行われた。

また、りんごについても、特定の時期への出荷の集中、晩生
種の「ふじ」での実われ果や果肉の褐変の発生による品質の低
下等から、卸売価格が低い水準で推移し、全5道県で補てんが
行われた。

○ 平成14年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額

	全 国	当該年産 価 格 円/kg	補 て ん 基 準 価 格 円/kg	交 付 額 億 円	1 農家当 り 交 付 額 千 円	考 備
み	全 国			34	142	
か	静 岡	186	205	10	187	対策加入県
	和 歌 山	148	185	15	330	19府県
	愛 媛	202	190	—	—	補てん対象県
	福 岡	153	155	0.3	20	12府県
	佐 賀	140	155	4	133	
	長 崎	162	160	—	—	
	熊 本	166	165	—	—	
り	全 国			39	219	対策加入県
ん	青 森	206	245	32	469	5 道県
	山 形	174	205	1	67	補てん対象県
ご	長 野	238	250	5	55	5 道県

(3) 15年産

うんしゅうみかんは、目標を下回る生産出荷量になったものの、冷夏、11月の高温多雨により果実の品質が低下したこと等により、前年産と比較すると、卸売価格が低い水準で推移し、12県に補てんが行われた。

また、りんごについては、目標を下回る生産出荷量になるとともに、果実の品質も過去2年と比べ良かったことから、前年産と比較すると、卸売価格が高い水準で推移し、全道県で補てんは、行われなかった。

○ 平成15年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額

	全 国	15年産 価 格	補てん 基準価格	交 付 額	対象者1人当 たり交付額	備 考
		円/kg	円/kg		千円	
み か ん	全 国			36	132	
	静岡県	197	185	—	—	対策加入県 18県 補てん対象県 12県
	和歌山県	145	160	10	171	
	愛媛県	153	175	8	129	
	福岡県	126	145	2	187	
	佐賀県	143	145	1	18	
り ん ご	長崎県	154	150	—	—	
	熊本県	134	155	5	259	
	全 国			—	—	対策加入県 6道県 補てん対象県 0道県
	青森県	254	230	—	—	
	山形県	202	200	—	—	
	長野県	293	265	—	—	
	(注)	236	225	—	—	

資料：農林水産省果樹花き課調べ

注：長野県は、上段が8～10月、下段が11～2月の期間区分のものを記載。

(4) 16年産

うんしゅうみかんは、相次ぐ台風で落果や傷果の発生により、収穫量が106万トンと適正生産量111万トンを下回る水準となり、11月以降計画出荷も順調に行われたことから、価格が堅調に推移し、品質の悪かった極早生のシェアが高い2県を除いては補てんが行われない見込みである。

また、りんごについては、相次ぐ台風で落果や傷果の発生により、収穫量が76万トンと適正生産量87万トンを下回る水準となり、計画出荷も順調に行われたことから、価格が堅調に推移したため、全道県で補てんが行われない見込みである。

※対象出荷期間

みかん：3月まで

りんご：県により1月まで～5月まで

○ 平成16年産うんしゅうみかん及びりんごの経営安定対策の補てん金交付額(最大見込額：契約数量ベース)

	16年産 価 格	補てん 基準価格	交 付 額 (最大見込額) (注3)	対象者1人当 たり交付額 (最大見込額) (注3)	備 考
全 国	円/kg	円/kg	億円	千円	
み			0.3	27	対策加入県
か			—	—	18県
人			—	—	補てん対象県
			—	—	2県
			—	—	
			—	—	
			—	—	
			0.3	48	
			—	—	
			0.1	13	
			—	—	
り			—	—	対策加入県
ん			—	—	6道県
ご			—	—	補てん対象県
			—	—	0道県

資料：農林水産省果樹花き課調べ

注1：宮崎県及び鹿児島県は、上段が消費地市場、下段が地方市場のものを記載。

注2：長野県は、上段が8～10月、下段が11～2月の期間区分のものを記載。

注3：契約数量ベースで最大見込額を推定(青森県について3月末までの価格)。

4 価格動向

(1) 15年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売価格は、卸売数量が前年を大きく下回ったことから、10月は前年比112%となったが、11月、12月の卸売価格は、早生みかんの主産地で高温多雨により果実の体質が弱く、腐敗果や棚持ちの悪い果実が発生したことから低下し、前年比の8割程度となった。

○ しかし、12月中旬以降、普通みかんが出荷され、主産県の果実の品質が良いこともあり、価格は前年並みに回復し、年明け以降は前年を上回ったことから、3月までの累計では、対前年比の94%となった。

② りんご

○ りんごの卸売価格は、8月の卸売数量が前年を下回ったこと、早生種「つがる」で、山形から長野、青森への産地間リレーが順調に進んだこと、それ以降もジョナゴールド等の中生種への切り替えが順調に進んだこと等から、10月までは前年よりかなり高めに推移した。

○ 11月に入ると、消費地が高温で天候が悪く、購買行動が鈍ったこと等から、価格はやや低下したが、12月以降は後発産地の青森県の出荷が抑制され、品質も良かったことから、卸売価格は上昇した。

○ 京浜市場におけるうんしゅうみかんの卸売数量と価格の推移

(単位: t, 円/kg, %)

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
卸売数量	3,982	24,586	31,844	55,099	24,079	16,475	4,859	160,924
14年産	4,652	30,691	38,200	53,751	21,513	16,688	6,253	171,748
対前年比	86	80	83	103	112	99	78	94
卸売価格	208	186	152	158	177	213	241	173
14年産	246	166	196	202	170	177	191	189
対前年比	85	112	78	78	104	120	126	92

資料: 日園連

○ 京浜市場におけるりんごの卸売数量と価格の推移

(単位: t, 円/kg, %)

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	累計
卸売数量	3,168	8,983	11,583	11,479	8,829	7,826	7,820	7,784	6,299	5,072	78,845
14年産	3,577	8,799	11,742	12,471	8,829	7,479	8,611	8,854	7,217	4,163	81,743
対前年比	89	102	99	92	100	105	91	88	87	122	96
卸売価格	334	244	265	218	233	238	251	264	273	286	253
14年産	308	208	223	210	187	181	182	193	224	248	209
対前年比	108	117	119	104	125	131	138	137	122	115	121

資料: 日園連

(2) 16年産

① うんしゅうみかん

○ うんしゅうみかんの卸売数量は、果実の酸切れが早く産地が前進出荷したこと等から、11月までは対前年比106%と多くなったが、台風、長雨の影響から早生・普通種の生産量が少なくなり、早生種の切り上がりが早かったことから3月までの卸売数量は対前年比96%となっている。

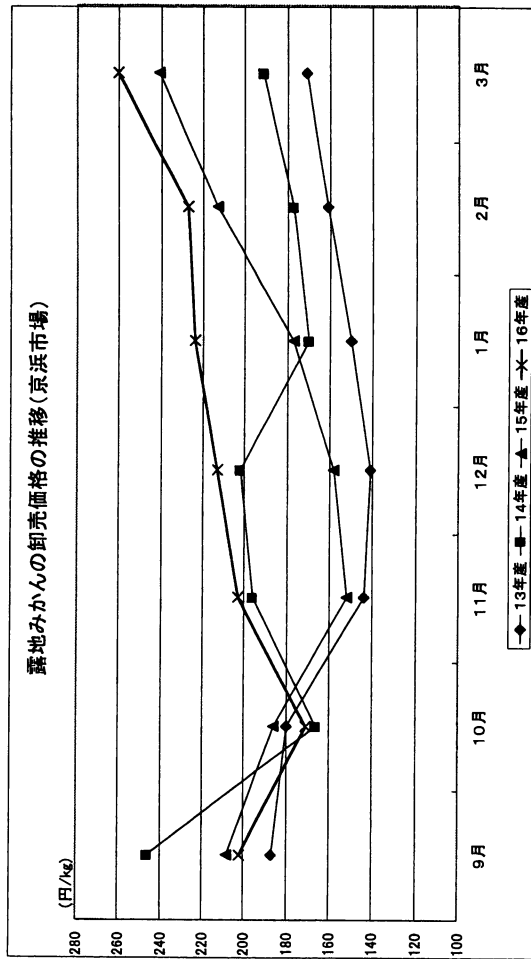
○ 一方、卸売価格は、9～10月の卸売数量が前年を大きく上回ったことに加え、台風、長雨の影響から極早生種の品質が低下し、産地間の格差が大きくなったこと等から、10月までは前年を下回る価格で推移したが、11月以降は前年を大きく上回って推移しており、3月までの卸売価格は、対前年比120%と堅調に推移している。

- 11月以降の卸売価格が堅調に推移した要因としては、
 - ・ 台風、長雨の影響等から10月以降、果実全般の数量が少なかったこと
 - ・ 極早生種の切り上がりが早く、早生種への切り替えがスムーズに行われたこと
 - ・ 普通種の産地が計画的に市場出荷を行ったこと等が考えられる。

○ 露地みかんの卸売数量及び卸売価格の推移（京浜市場）

		(単位：t、円/kg、%)									
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計		
卸売数量	16年産	4,396	26,542	33,104	49,753	21,792	13,723	5,108	154,418		
	15年産	3,982	24,586	31,844	55,099	24,079	16,475	4,859	160,924		
	対前年比	110	108	104	90	91	83	105	96		
卸売価格	16年産	202	171	203	213	224	227	260	208		
	15年産	208	186	152	158	177	213	241	173		
	対前年比	97	92	134	135	127	107	108	120		

資料：日農連調べ



② りんご

○ りんごの卸売数量は、8月は前年を上回ったものの、9月以降台風の影響による落果や傷果の発生等から前年を下回る出荷となっており、4月までの卸売数量は、対前年比94%となっている。

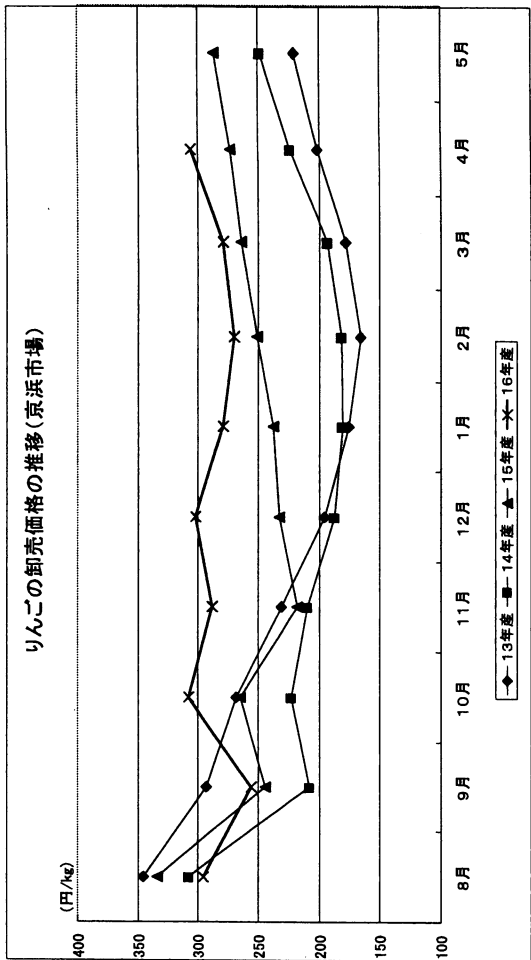
○ 一方、卸売価格は、8月は卸売数量が前年を上回ったことから前年比88%となったが、その後、卸売数量が前年を大きく下回り、品質も良いことから、特に10月以降の価格が前年を大幅に上回って推移し、4月までの卸売価格は、対前年比115%となっている。

- ・ 台風、長雨の影響等から、果実全般の数量が少なかつたこと
 - ・ 中生種や晩生種のふじの品質が良く市場評価が高かつたこと
- 等が考えられる。

○ りんごの卸売数量と卸売価格の推移（京浜市場）

		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	累計
卸売数量	16年産	3,376	8,115	10,250	10,984	8,004	7,047	7,282	7,835	6,401	69,295
	15年産	3,168	8,983	11,583	11,479	8,829	7,826	7,820	7,784	6,299	73,773
	対前年比	107	90	88	96	91	90	93	101	102	94
卸売価格	16年産	295	256	308	288	302	279	270	279	306	287
	15年産	334	244	265	218	233	238	251	264	273	250
	対前年比	88	105	116	132	130	117	108	106	112	115

資料：日蓮運調へ



5 17年産生育状況

(1) うんしゅうみかん

極早生、早生、普通品種について、3月の気温が平年より低く発芽期は平年より遅れが見られていたが、4月に入り気温が高くなり開花期は平年並みとなっている。また、おもて年であることから着花量は総じて多くなっており、現在の生育は順調となっている。

○うんしゅうみかん主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県名	発芽期	開花期	着花量
静岡県	並～1日遅れ	並	並
和歌山県	1～6日遅れ	並	やや多
愛媛県	4日遅れ	並	やや少～並
福岡県	3～4日遅れ	2～3日早い	並～やや多
佐賀県	6、7日遅れ	6、8日遅れ	並～やや多
長崎県	10日前後遅れ	2～3日早い	並
熊本県	5日前後遅れ	並	並～多
宮崎県	7日遅れ	1～2日遅れ	やや多
鹿児島県	5～8日遅れ	2日遅れ	並～多

(2) りんご

冬の大雪、融雪の遅れにより発芽期、開花期に遅れが見られるが、着花量は、平年並みから多いとなり、現在の生育は順調となっている。

○りんご（ふじ）主産県の生育状況（5月1日現在 平年比）

県名	発芽期	開花期	着花量
青森県	7日遅れ	7日遅れ	平年並
岩手県	5日遅れ	5日遅れ	平年並
秋田県	7日遅れ	7日遅れ	平年並
山形県	5日遅れ	5日遅れ	平年並
福島県	6日遅れ	並～1日遅れ	多い
長野県	2日遅れ	1日遅れ	平年並